

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第12回 市制100周年幹事会 摘録

日時：令和7年1月23日（木）15：00～17：00

場所：川崎市役所本庁舎復元棟101会議室

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアディレクター

幹事 川崎商工会議所 向田担当部長

株式会社チッタ エンタテイメント 若井課長

かわさき市民放送株式会社 大西社長

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 総合研修センター 荻野課長

一般社団法人川崎市観光協会 北嶋主任

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

味の素株式会社川崎事業所 森次長

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長 他

コアメンバー：味の素株式会社 鈴木氏

富士通株式会社 池田シニアマネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

（敬称略）

1 開会

2 報告

報告第1号：令和6年度収支決算見込み

報告第2号：（仮称）市制100周年の取組を未来へつなぐイベント

—事務局より資料1～2を用いて説明

浅岡幹事長：（仮称）市制100周年の取組を未来へつなぐイベントは春休み中なので、お子さんが集まる仕掛けをしてほしいですね。

内藤幹事：にぎやかにフィナーレを飾ってもらったら、と本当にそう思います。

浅岡幹事長：やるなら、いっぱい大勢の人に参加いただきたいと思うので。

大西幹事：何か一つこの企画のメインビジュアルを考えて、街にメインビジュアルがたくさん溢れていて、動線として、駅から等々力競技場のほうに持っていかれたらいいなと思います。等々力緑地だけでやっているというのと、それを知っている方か地元の人しか行けないようになってしまうのがもったいないなと思うので、駅のほうにも染み出してくると非常にいいな

と思います。いろいろな調整事があると思いますが、もし可能でしたらそこだけお願いします。

事務局・長瀬係長：ありがとうございます。中で相談してみたいと思います。

荻野幹事：資料1の収支決算について、こちらの中のColors, Future! Summitの支出のところ、一番最後の会費の返還金というのが結構大きな金額が出ているなというように思ったのですが、これは当初の予定と何が違って、このくらいの返還になったのでしょうか。

事務局・荻本係長：当初の予定を申しますと、参画いただくメンバーの方々に会費を負担していただいていますので、できれば会費を返還し、さらに収益を上げればプラスとしていました。

荻野幹事：会費の返還金って、たぶん最初から見込んでの支出にはなっていなかったのだろうなと思っているのですが。

事務局・荻本係長：そういう意味では、プラスに大きく働いたのは昨年度よりもスポンサーセールスがだいぶ進みまして、大きく収益が上がりました。昨年度よりかは、はるかにスポンサー収益があったので、お返しできることになり、計上しています。

事務局・石井課長：会費をいただいています、利益があればプラスオンとするのですが、そもそも会費は返す形で考えていたので、計画どおりの形になっている状況です。

事務局・荻本係長：マイナスになれば戻ってくる額が減ることになりますので、収益が上げられなければ会費はゼロ、戻ってくるお金はゼロだったということになります。

荻野幹事：債務が増えたので、というところですね。

事務局・荻本係長：はい。

中山幹事：報告第2号のイベントですけれども、今、緑化フェアのときに、ニヶ領用水のところに、花壇をもう一回つくったり、いろいろな看板を立てたり、すごくきれいになっているのですが、そこに一緒に掲示とかすることで、行くまでのワクワク感も高まるような気がしますので、その辺で工夫していただけるといいかなと思いました。

事務局・長瀬係長：ありがとうございます。緑化フェア室と対応を相談したいと思います。

報告第3号：みどりの共創プロジェクト『midori-ba』令和6年度 of 取組

報告第4号：鉄道事業者等との連携による駅周辺のみどりの創出について

報告第5号：生田緑地におけるみどりとアートの連携について

—事務局より資料3～5を用いて説明

内藤幹事：100周年だからこそやっている事業ということの展開が多い中で、「みどりの共創プロジェクト」は法人化を迎えて令和7年以降も継続してやっていこうとしていて、そのときの質問なのですけれども、本年度だからこそ、700万円の実行委員会からの負担金がありましたよね、全体1,400万円でこういうことをやりましたと。それが来期はしないとすると事業自体は今後どのような形でやっていくのでしょうか。要は、共催者を多く募って、1,400万円なりの予算を取ってやっていこうという部分なのか、負担金がない700万円の中でできるところから手探りでやっていくというものか、令和7年以降の展開って、どのような形になるのかな、というのを教えてください。

事務局・矢口課長：財政的にどういように継続していくかということを検討している最中でございますけれども、一つには、有料会員制による会員という形で組織を回していこうといったところがございます。また、各イベントに関しましては、もちろん無料だけではなくて、有料で体験という形で現在もやっております、そこが価格も適正であるかなということで私たちも見てるところなのですけれども、何かものづくりをするにあたりまして1,500円とか、あるいは2,000円とか、そういった形でのお金もいただきながら運営しているといったところもございます。またもう一方、協賛を募るためにどういうツールを使って、どういう形で営業をかけていけば協賛者も募れるかということを現在検討しております、そういったビジネスツールをいろいろ使いながら協賛していただける、また、共感していただける、そして、こういったイベントを必要としている方々のところに情報が届けられるように、ということで現在検討を進めております。

内藤幹事：ぜひ、「みどりでつなげる、暮らしやすく、住み続けたいまち」で立ち上げた部分ができるだけ続けてというのか、広げてというのか、活動を負担金なしでできるような組織の進め方をしていってもらったらなというように思います。

小池事務局長：100周年事業はいろいろな支出の仕方があって、飛躍祭みたいなお祭りに支出してみんなで祝うというような使い方もあるのですけれども、本来は100周年をきっかけに100周年で立ち上げるところは半額とかサポートして、それが来年度以降は負担金なしで自走していただけるのが、難しいのですけれども、一番望ましい形です。先ほどのColors, Future! Summitも会費を出していただいて、収益がある程度トントンまで来たので、返還できたという、そんな事例もございます。これも参加のメンバーの方がすごく頑張ってください、負担金なしで、なんとか自走できるような、そんな仕組みを今、一生懸命考えていただいているというところです。負担金という形での応援は来年度以降難しいというところもございますが、その中で自走できる取組の非常にありがたい事例としておりますので、広がっていただきたいなと思っております。

内藤幹事：100周年がいきっかけになって、いろいろなところで、101年目以降につながっていくことが、たぶん望まれるのだろうなど、それを市民も求めているのではないのかなというように思います。

浅岡幹事長：全般的に商業ベースに乗せられるものは乗せていくと、あとは当然それに見合ったバリューを提供しないとなかなか、というところが一つあると思います。あとは、例えば企業が協賛をしてもいいと思えるようなシンボリックなものを立てているのか、その辺を商業ベースに向かうものとして、なんとか自走できるような形を目指して、101年目以降の組織の中でもお手伝いしていけるものは、手伝っていくということになるのかなと思います。

森幹事：内藤幹事のご意見に重なるような形になりますが、市制100周年をキーとして様々な企業・団体が結びついたことはとても意味のあることだと感じています。101年目以降の取組みは非常に難しいチャレンジだと思うのですが、市としてどのような支援をお考えでしょうか。

事務局・矢口課長：これは、みどりの事業というだけでなく、また、この先の100周年後の市の立ち位置というのものもあるかと思うのですけれども、やはり、こういった動きがあるということが市の施策と一緒に並列して走ることで効果がより相乗効果になると思いますので、そのお互いの情報交換の場というのが、すごく大事だということが一つあります。あとは、あらたな川崎市の仲間たちにも、よりこの取組を知っていただく、そういう場を設定する、そういったことは市としてやっていけるところではないかなと思っておりますので、そういった、つなぎ役をしっかりと進めていければと考えているところでございます。

森幹事：ありがとうございます。とても安心しました。今後は独立で、自立で、となるときさすがに厳しいと思っていたのですが、市とのつながりがこれからも残るということは非常に大きな後ろ盾であり、応援になるのではないかと思います。是非ともよろしく願いいたします。

荻野幹事：このイベントとちょっとずれてしまうかもしれないのですけれども、今、いろいろご説明いただいたものは未来につながっていくということがベースになっていると思うのですけれども、例えば100周年となると、この100周年を一番体感されているご高齢の方とかそういった方たちが、懐古するような何か事業とか、イベントとか、そういったものはあるのでしょうか。例えば今、ポスターが、川崎の今昔みたいな各区のものが飾られていると思うのですけれども、そういったものが、もうちょっと深めたものであったりとか、例えば今の80代とか、まだお元気な方がたくさんいらっしゃると思うのですけれども、この川崎市制100周年の80年を生きられた方が、「ああ、80年を迎えたんだ、昔はこうだったよね」みたいな思いを寄せるような事業というのは何かありましたか。

小池事務局長：この後のレガシーの取組の中でも、少しだけ出てくるかと思うのですけれども、川崎市の歴史を伝えるようなことは今後もやっていかなければいけないかなというもの

ありますので、そういった取組が何かイベントとして出せるかどうかは別として、考え方としてそういったところはしっかり持って進めていきたいなというのは、この後の中でも少し出させていただきます。また、その場でもご意見いただけるとありがたいです。

事務局・金井課長：少し補足しますと、実行委員会の主催事業で、高齢者の方のみをターゲットにした事業というのはないのですけれども、川崎市の健康福祉局が地ケアフェスを今回100周年記念事業として新たに実施しております。市が主催する事業ですとか、参画団体の主催事業とかで見ますと、全地域、全年代を対象にしたような事業が生まれていると考えるところがございます。

報告第6号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業に関する取組状況について

報告第7号：協賛状況について

報告第8号：実行委員会第6回総会の開催について

報告第9号：市制100周年記念事業の取組成果について

—事務局より資料6～9を用いて説明

若井幹事：都市イメージ調査の結果は、すごくいい数字ではないですかね。例えばシビックプライド「誇り」が5.9ポイント、「愛着」が6.3とありますが、このポイントはどういう位置づけですか。

事務局・石井課長：ポイントは、それぞれカウント数が違うのですけれども、シビックプライドの愛着のところについては10点満点中ということです。

若井幹事：そういうことなのですね、分かりました。

事務局・石井課長：この令和5年、6年と本当に皆様方にご協力、やっていただいた結果でシビックプライド指標が上昇したものと考えていまして、この数値が出たときに、調査の担当はブランド担当なのですが、結構みんな、涙が出るくらい喜んでいまして、本当に皆様のご協力で上がってきたと感じているところでございます。

内藤幹事：この隣接都市ってどこですか。横浜市は別立てで立っていますね。

事務局・石井課長：近隣都市としては、大田区、世田谷区、狛江市、稲城市等いろいろなどころの都市の400名の方からアンケートをいただいているところです。

内藤幹事：隣接都市は、横浜市以外の隣接で、川も含めて隣接をしているところでしょうか？

事務局・朝倉課長：隣接都市には横浜市の鶴見区、港北区、都筑区、青葉区が含まれます。横浜市は隣接都市以外の横浜市というところを取っております。

向田幹事：私は川崎で働いているせいか、家族とか親戚とかに、「今年、川崎すごいよね」ってよく、去年はすごく言われて、皆様、すごくPR・広報活動やられた成果で、「行ったことないけれども、今度お祭りに合わせて行こうかな」という話を結構お聞きしたり、我々の会員になっている企業様の中でも、面白そうなことをしているし、「せっかくなので、イベントに家族を連れていってみようかな」というお話は多いです。せっかく市内で働いているのでこののをよくお聞きしました。

浅岡幹事長：市制100周年であることの認知度92%とありましたね。

向田幹事：すごいですよ。すごく周知されていた成果なのかなというのは、感じました。

小池事務局長：居住推奨度とか、住みたいまちだとか、お勧めのまちだとか、来訪推奨度だとか、今の向田さんの話でいってもそうなのですけども、川崎に行ったら面白いよとってくださる方が増えた、爆上がり状態ですね。

向田幹事：いわゆる今の二十代の方々、住んでいる方も、働かれている方も、たぶん我々以上に川崎のイメージはいいと思うのですよね。働きやすいとか、住みやすいというのになりつつある、なっているのだと思うのですけれども、それが分かり、昔のイメージとは違うのだというのは思います。

中山幹事：今のこのグラフの見方ですけども、川崎市近隣都市、横浜市は、それぞれ居住している人が居住している市についてのコメント・感触ですよ。その一都三県というのは、どのような取り方をされているんですか。

事務局・朝倉課長：一都三県は、東京都の先ほどの隣接しているところ以外のところと、神奈川県、川崎を除いたものと、千葉県、埼玉県になります。

中山幹事：それぞれの住んでいるところについてのイメージなのでしょうか？

事務局・朝倉課長：（1）は川崎に対してのイメージでして、（2）、（3）、（4）、（5）というのは自分の住むまちに対しての思いというところになっております。

小池事務局長：例えば（4）を見ていただくと、川崎は令和5年度は7.7ポイントだったのが3倍くらいになっている。横浜は、もともと高く21.3から26くらいですけども、上がり方がこの一年でグッと上がったのが、すごく効果があったのかなというようなイメージです。

中山幹事：（6）ブランドメッセージ（ロゴ）認知というのは、ほかのエリアの方も含めてこの川崎市のブランドについてのということですよ？

事務局・石井課長：そうです。よって、(1)と(6)は川崎市の関係を聞いています。

向田幹事：結構、横浜市と変わらないくらい、川崎の方々もシビックプライドに対して皆さん意識を持っているということですね。横浜市民の方々には横浜に対してプライドは高いのだと思うのですが、それに近しくなっている気がします。

大西幹事：来訪推奨度のところですが、何をお勧めしたいかというのは取れていますか？例えば食なのか、ライブイベントなのか、などです。

事務局・朝倉課長：来ることをお勧めするかの調査で、買い物とか具体的なところまでは調査しておりません。

3 議事

議案第1号：Colors, Future! Actions推進ビジョン(骨子素案)案

—事務局より資料10を用いて説明

浅岡幹事長：本日の議案としての内容は、今日お示しいただきました骨子素案(案)についての皆様のご意見をいただき、それを反映した形でもう一度、書面等で確認をいただく機会があるということでしょうか。

事務局・長瀬係長：そうですね。今回承認いただければ、案を取って、骨子素案という形にして、川崎市として議会にも説明した後に、次の幹事会で骨子素案から、素を取った骨子案としてお諮りさせていただき、その過程でご意見も聞きながら骨子を策定していきたいと考えております。今回は骨子素案(案)について御意見を伺えればと思います。

浅岡幹事長：たたき台として今日は説明していただいたので、それについての視点とか、こういった骨組みでよろしいかというようなご意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

森幹事：この一年間の多くの関係者の方々の努力によって数値上も含めて良くなったと思います。残念ながら、「居住したい」とか「訪れたい」という点については改善の余地があると思いますが、これから先はそこにもつながるような取組をどのように持続するのかという点がとても重要になると思います。100周年のときには様々なイベントがあり、その是非を問いながら、効果があるか、いったい誰を対象にするか、というような具体的な話もしやすかったのですが、今後の取組について現段階では非常に漠然としており、一体何を目標とするのかということすらはっきり見えていない状態という感じがしています。これからもこのつながりを大事にしたいということは間違いありませんが、100周年という求心力がなくなった段階で何らか新たな求心力が必要になると思います。

事務局・長瀬係長：ありがとうございます。まさにおっしゃるところが課題だと思っ
て、100周年は割とわかりやすく、皆さん、期間は限られているし、盛り上げよう
とわかりやすい求心力があるのですけれども、来年以降それがなくなった中で、
じゃあ何を、というところが難しく、そこが課題だと認識しております。そ
ういう全体でキャッチーな、グッと100周年みたいなものって今のところ
アイデアはなく、なかなか難しいなと思っているのですけれども、個別の
いろいろな事業をそれぞれもう少し、このあたらしい川崎を進めるための
取組としてやっていき、そこに企業や市民を集めていくべきなのかなと今、
考えているところです。

内藤幹事：連動しているかどうか分からないですけれども、次の「次期シ
ティプロモーション戦略に向けて」という資料の中に結構いいヒントがあ
ったので、そこを先に話すと、要は、今後の戦略を考えていくと何が欠
落しているか、「おしゃれ」「落ち着きがある」というのを聞いたときに、
麻生区は「おしゃれ」だと思っているし、「落ち着きがある」というように
思っているのだけれども、「川崎全体で」と聞いたときに、その比率が下
がってしまう。つまり、川崎全体を自分たちが誇れるような意識に持
ってくというのが大事な次の戦略なのではないかと思えます。100周年
を機に、そのエリアでいろいろなイベントをやりました。そこはすぐ浸
透したと思う。だから、「おしゃれ」だと思ったり、「落ち着きがある」と
いうように思ったのだと思う。考えていかななくてはいけないのは、
それを全体にすることなのではないかなと思いました。こういうことを
踏まえてレガシーをどうしていくというように、振り返って考えてい
くことというのが大事なのかと思えます。これをビジョンにしましょう
よと、そこまでは言えないのですけれども、ここに課題があるように思
いました。

小池事務局長：ありがとうございます。100周年も、もともと川崎が
南北に長くて、麻生の方は川崎を知らない、その逆もそうだし、行
ったこともないみたいな状況を課題に思っていて、皆さんが各地で
いろいろなイベントとか、アクションを起こすこと、それを体験して
もらうというところはありました。こういったアンケート結果をまたリ
ンクさせながら目標を定めていくというのは本当に必要だなと思
いました。

内藤幹事：本当にいいきっかけだったのですよね。100周年でやり
きれなかったこと、これがたぶん次期の考えていかななくては
いけない柱になるのではないのでしょうか。直接つながるかどう
か分かりませんが、ふるさと納税で川崎はどんどん流出をして
います。要は、川崎という市全体を本当に気に入ってもらえる
ような、好きになってもらえるような、そんなことを考えてい
くというのが柱にならないかなと思えます。

浅岡幹事長：ふるさと納税による流出は止められないので、逆
に、もっと魅力的なものを発信するしかないですね。プラス・マイ
ナスでゼロにするしかないかなとは思いますが、骨子のほうにつ
いては、視点としては網羅しているのかなとは思っているところ
はあるので、より内藤さんの話には、市民同士のつながりとい
うのは大事だということのご意見ということでよろしいです
かね。知っているところは魅力だと思っているけれども、知ら
ないところはよく分からないからということなのかなという
感じはして、面白いのは、南部の人はあまり自分のとこ

ろは思っていないけれども、市全体は高くなるのだということです。その辺の分析もしながらということでしょうかね。

中山幹事：川崎市全体と自分の街のイメージ比較（MA）のグラフで確認ですけれども、さっきの一都三県と同じように各区があって、川崎市全体というのはどのような意味でしょうか。

事務局・竹田係長：それぞれの区は、一番左ですと川崎区の住民が、ブルーのほうがか崎区に対して持っているイメージ、オレンジのほうがか崎市全体に対して持っているイメージです。川崎区住民、幸区の住民、中原区の住民というように見ていって、それを足しあげた川崎市全体で見たときにどうなるか。各グラフの一番右側の横浜市というのは横浜市民が見た川崎市のイメージです。

中山幹事：各区民の意見を全部足したのが川崎市全体ということになるわけですね。

浅岡幹事長：川崎区の住民の満足度を上げると、市全体は良くなるという感じですね。

浅岡幹事長：ほかにはいかがでしょう、骨子について、全体的にというところでは大体よろしいですかね。なかなか難しい作業で大変だと思いますが、ご検討をよろしくお願いします。

その他 次期シティプロモーション戦略プランの策定に向けて

—事務局より資料11を用いて説明

浅岡幹事長：皆さん、何かアイデアというようなものがあれば、ぜひご発言いただければと思います。いかがでしょうか。ちなみにすみません、先ほどの棒グラフですけれども、「おしゃれ」という言い方で聞いているんですよね？「愛着」の要素として「おしゃれ」、そういうイメージでよろしいですか。川崎に「おしゃれ」ってどうなのかなと。自分も50何年関わっておりますけれども、「おしゃれ」って聞かれると、他の言葉ではないかと。

事務局・朝倉課長：ここは「おしゃれ」と「落ち着きがある」ということを抽出しているのですけれども、そのほかにも川崎市のイメージを便利だとか、いろいろな項目を聞きながら調査しました。こちらは直接、「愛着」、「誇り」、と相関というところではなく、川崎市のイメージというところでお聞きしている項目になります。

浅岡幹事長：住みやすいとか、便利とかというのは、もうちょっと良かったですか。

事務局・朝倉課長：今、細かい分析については進めているところでございまして、今日は「愛着」、「誇り」ですとか、「来訪推奨度」というところをまずお出しさせていただいたところでございます。

事務局・竹田係長：今日の時点では、速報値で一部の部分だけお見せしております、後ほど分析したものがまた公表される予定でございます。

浅岡幹事長：なんとなく市全体を上げるには、数学的な話でいけば川崎区の数値を上げるのが一番早いのかなと思いました。

内藤幹事：各エリアの住民がこのエリアは川崎なのだというのがあれば、川崎市に住み続けたいということにつながっていくのです。そこが欠落しているような気がする。だから、川崎を全体で捉えていきましょうというのは、浅岡さんがおっしゃるように「川崎区はもうちょっと頑張る」という部分は確かに多大に影響してくると思うし、各区のイメージを上げること、それが市全体の数値の上昇につながると思います。

浅岡幹事長：やり方は二面性があると思っています。知らないから魅力があると思っていない部分と、もう一個は、もっとドーンと何か一つあると、あれがあるから、例えばディズニーランドがあるからとか。川崎には、さすがにディズニーランドはないので、それに代わるようなもの、日本全国に届くようなとかいうのがあれば一番いいです。個人的には川崎大師をもっとうまくできないのかなと思います。あれだけネームバリューがあるのに、「初詣のときの参拝客が多いです」くらいしかニュースにならないというのはもったいないのかなと思います。

内藤幹事：誇れるものは、川崎大師もそうだし、商業施設は東京にはかなわないかもしれないですけども、それなりに充実したものがありますよね。他にも、例えば先進企業と言ったら新川崎の集まりとか、富士通さん、NECさん、キヤノンさん含めトップランナーが川崎市に集結しているというのも売りだと思う。要は、北部には結構緑がありほかのところにはない良さがあったり、部分部分を取ったら、いいところがいっぱいあるじゃない。それが全部集まったのが川崎なのですという部分を皆さんにもっと知ってもらおうということが必要なのではないかなと。

中山幹事：そうですね。まちというか、都市っていろいろな顔がそれぞれにあって、それは当然だと思うのですね。麻生区の良さ、中原区の良さ、川崎区の良さ、いろいろあると思うのですけれども、そういったのを今回の100周年でいろいろお互い行き来をして知ることにはなったと思うのです。こういう取組を進めていけばいいのではないかと思います。例えば新百合ヶ丘に住んでいる方って、どうしても小田急線を使われるので、新宿とか町田に行くのが楽し便利というのは絶対あると思うのですね。だけど、年に何回か、例えばみんなの川崎祭があるから、じゃあ今日は川崎に行こうとか、そういった人の流れがちょっとずつでも増えていくと、それで一体感みたいなのが出てくるのではないかという気はするのです。

内藤幹事：南武線の乗降客数って相当なものがあるではないですか。それだけ行き来しているのですよね。川崎の人ばかりではないですけど、いろいろな地域の人が行き来しています。

中山幹事：いいところを伸ばすというのは当然やっていく、逆に良くないところは、つぶしていく必要が絶対あると思うのですね。例えば治安が悪いとか、良くないところ、環境が悪いとか、そういったのはどんどんつぶしていく。けども、いいものはそれぞれ伸ばして行って、その住民が、そのまちをもっともっと好きになって、小杉にずっと住んでいたいとか、新百合ヶ丘に住んでいたいとかと思われるのは全然いいことだと思うのです。

北嶋幹事：昨年度からのことで100周年のコンテンツ、Xでの発信とかは引き続きやり続けていらっしゃるのですよね？

事務局・金井課長：WEBサイトは一旦、事業が終わった後に今後どうやっていくかを判断して、今の形でずっと残っていくということはないのかなというところではあります。Xは市の公式Xですので残ります。

北嶋幹事：情報発信がすごく大事ですので、去年からずっと行ったイベントとか活動は、どんどん皆さんイベント情報をホームページで上げていますので、川崎の知名度とか、好きになってもらえるための効果が出ていると思います。やはり、どんなイベントでもいいから、どんなキーワードでもいいから、どんどんネットでアップしていくのが大切だと思います。「皆さんうちのツアーのことをどうやってお知りになったんですか。」と聞いたら、WEBとか、そういう方が多いのですね。たぶん100周年記念事業のおかげで、いろいろなイベントやキーワードのタグになってきて、そのおかげで何かを調べるときは川崎がヒットしてくるのですよね。なので、ぜひホームページとか、Xとか、SNSをもっと利用してPR、プロモーションしていただけたらなと思います。

事務局・金井課長：確かに我々も市制100周年WEBサイトはいいサイトとっていて、今後も情報発信やプロモーションをどうやっていくか、今年つくったのをどう生かせるかみたいなところは、もうちょっと引き続き検討はしていきたいと思っています。ご意見いただきながら進めていきますので、よろしくをお願いします。

若井幹事：例えば多摩川で週末、みんな泳げるようになったら、すごくいいなという気がします。汚れてしまった多摩川を川崎市民のみんなの力で何年までにきれいにして、平日は川崎市内で一生懸命働いたり、都内で一生懸命働いたりするけれども、週末、川崎に住んでる人は多摩川で泳いでいるらしいよみたいな。多摩川のほとりで日焼けして楽しんでみたいところ、そういう市民とか行政の努力によって自然の素晴らしさを取り返すみたいなことができる、何か一つ市民みんな達成する、多摩川に関わっている工場の方々が努力してするとか、住んでいる方々が汚いものを出さないようにするみたいな、自転車を多摩川に捨てないように努力するとか、そういうのでプライドみたいなものが醸成されて行って誇りとかにつながると、すごくすてきかなと思っています。そういった、ちょっと大きい目標みたいなものを子どもたちも一緒になってみんなで掲げて実行していこうみたいなことが言えると、すてきな市だな、すてきなまちだなんてなりそうだなというように思いました。

浅岡幹事長：泳ぐのはなかなか難しいかもしれませんが、川辺はもう少しいろいろできるともっと自由に使えていいですね。

内藤幹事：確かに、対岸を見ていると、東京都側の多摩川のこの楽しみ具合と、向かいの川崎側と、どっちかと言ったら、やや劣勢のような気がします。広さは同じなのですから川崎なりの楽しみをいろいろなところで作った方がいいのではないかと思います。駅周辺の多摩川の遊歩道は、たぶん整備されるでしょうし、都会を楽しむみたいな、アーバン性を楽しむ遊歩道があると。

浅岡幹事長：イメージアップにもつながりますよね。ターミナル駅から歩けるというのは、たぶんないですね。

内藤幹事：あとは、臨海部は臨海部で海に近い、もしくは羽田に近いというところの中で何か楽しむ、下流は下流で何か楽しむものがあるって、それがいいような気がしますよね。鮎もいいし、楽しみもそうだし。

森幹事：100周年の様々な取組を通じて非常に多くのタッチポイント、体感できることがあったことは間違いなくイメージにプラスに作用していると思います。今後、そのタッチポイントが大きく減少することは避けられないので、SNSや川崎市のホームページ等を活かしながら少しでもタッチポイントを増やす努力と工夫が必要になると考えます。

次に、川崎市のイメージについてですが、実際に住んでいる方からすればご自宅の近隣については具体的なイメージをお持ちだと思いますが、一方で川崎市全体のイメージは何かと問われると、人それぞれ違いがあるのだと思います。川崎駅前なのか、臨海部なのか、どこなのかは分かりません。私の勝手な想像ですが、横浜と言われたときに良いイメージを持つ方が多いと思いますが、それはみなとみらいのような場所がぱっと思い浮かぶからではないかと思っています。では、川崎においては何かと問われると、その象徴的なものがぱっと思い浮かばないという点が弱いところなのではないかなと思います。一つに絞ることはないと思うのですが、それでも「これが川崎だ」と誇れるもの、魅力を増やすための努力はとても大事なことはないかと思っています。

北嶋幹事：川崎の対外的な認知度やイメージの向上ですけれども、その対象者としては、日本国内にいる市外の方なのか、あるいは海外まで視野に入れて考えていらっしゃるのですか。というのが、やっぱりSNSの話なのですけれども、何がこのネットでバズるかというのは分からないので、外からの目線で川崎が、こういうところが面白いなというのは結構、観光協会ではそういうお問い合わせが多くて。だから、外の目線から、「川崎、あっ、こういうところがあるんだ」ということを気づかせてくれるのですよね。そういったこともアンケート調査したほうがいいのではないかなと思いますね。

浅岡幹事長：せっかく羽田があるので観光をもうちょっとってほしいですね。

荻野幹事：会議にご欠席されているのですけれども、若者会議の方がどういった視点を持たれているのかなというのをずっと思っています。今、若い子たちはTikTokとかYouTubeを見ると思うのですけれども、TikTokを見ていると意外と、例えば「どこどこに行ったら、ここに行ってみて」みたいな、そういうのを上げています。そうすると、例えば旅行に行くときに調べて、「あっ、こんなところあるんだ」と思ってそこに行くというのがあります。もっと深く知りたいときには大体TikTokからYouTubeにつながっていたりするので、そっちを見たりとかというのを、意外とみんなそういう活用していると思う。それって食べ物なんかも多くて、ここに行ったらこれ食べたほうがいいよみたいな、こんな並んでたよとか、こんなのだよというのを若い子たちは見ていると思うので、できればSNSを使ったものというのを、かわさき若者会議の方たちなんかのご意見をいただいたりとか、どんなようにしていったらというのをもらえると、もう少し若い子たちに跳ね返るようなものができるのかなというように思っています。なかなか会議のほうでお会いできないので、そんなご意見を聞く機会があれば、ぜひ聞きたいなというように思っています。

浅岡幹事長：ショート動画って、すごく効果ありますね。20代、30代前半くらいまで、長いのは見ないのですよね。15秒で、こんないいところがあったみたいな。

北嶋幹事：はい。そういう仕組みというか、投げかけ方というのも慣れている子たちに聞いたほうがいいかなというように思いました。

若井幹事：お約束づくりですよ、川崎行ったらあれを食べるのが定番ですみたいな。

北嶋幹事：そうです。これ見てねとか、これ食べてねみたいなのを戦略的に発信できる子たちにしてもらおうというのは一つの手かなというように思います。

事務局・竹田係長：ありがとうございます。

浅岡幹事長：大体よろしいですか今日いただいたご意見をまた参考にさせていただいて、進めただければと思いますので、よろしく願いいたします。

4 閉会

以上